

【補足資料】秩父・皆野新校準備委員会（第1回） 議事詳細

- 1 日時 令和5年2月6日（月） 午後1時30分開始
午後3時10分終了
- 2 会場 県立秩父高等学校図書館2階研修室
- 3 出席委員 臼倉委員長、町田副委員長、川窪副委員長、金田委員、飛川委員、
嶋田委員、三橋委員、安藤委員（オンライン参加）、松本委員、
堀口委員、大沼委員、小菅委員、浦島委員、若林委員、田島委員、
横田委員、佐藤委員
- 4 事務局 魅力ある高校づくり課 栗藤、中島、坂本、高辻、橋本
- 5 協議等 「秩父・皆野新校基本計画検討（案）」について
臼倉委員長 次第3、協議に移りたいと思います。まず、事務局から本委員会について説明をお願いします。
事務局 （新校準備委員会について、今後のスケジュールについて説明）
臼倉委員長 ただ今の説明につきまして、何か御質問、御意見等ありますでしょうか。
よろしいですか。それでは次に、既に令和4年10月に策定、公表いたしました魅力ある県立高校づくり第2期実施方策について、事務局から説明をお願いします。
事務局 （魅力ある県立高校づくり第2期実施方策について説明）
臼倉委員長 ただ今の説明につきまして、何か御質問、御意見等はございますでしょうか。若林委員、お願いします。
若林委員 今更何を言っているのかと言われても困るのですが、今回の統合について、秩父市長、あと秩父地域の4町長から、今回の統合について反対の要望書が出ているかと思いますが、こちらについては回答を既にされて、このままいく、ということなのでしょうか。
臼倉委員長 事務局からお願いします。
事務局 直近に限らず、複数年にわたって、この地域の皆様からそういったお声をいただいております。今回、第2期実施方策を案として公表した際にも、そういった御意見をいただいているということで、私たちとしては、それを真摯に受け止めながら、地域の皆さんの声をしっかりと伺って、新しい学校をより良くしていきたいと考えております。最初の挨拶の中にもありましたけれども、中学生の人口減少というところを考えますと、学校の適正な規模を維持していくために、これまでは学級数を減少させることで対応してきましたが、もうギリギリのところまできているということもあり、こうした、いわゆる再編整備が必要だと判断させていただいた

ところでございます。ですので、この準備委員会の中で、たくさんの御意見、御要望などをいただきながら、地域の皆さんのお声を拝聴しながら新しい学校づくりを進めてまいりたいと考えております。

若林委員 今説明がありました、その辺の理解についてはしているつもりです。ですから、この反対の要望について、回答をどうしたのか、それをお聞きしたいわけです。各町村議会においても、反対する議会もあって、その後どうなったのかというのが一つの大きな話題になっておりますので、例えば横瀬町は特に反対の要望は出さなかったのですが、他の町村に対してどのような回答をされたかというのが、どこかで説明をしろと言われたときに、こうなっていますと。趣旨は重々分かっています。少子高齢化でどんどん生徒が少なくなって、趣旨は分かりますが、こういう要望が出ていることに対して、回答した、していない、あるいはこのままいってしまうのか、たぶんこのままいってしまうのでしょうか、一つの公文書をもっている立場であれば、こういう対応をしましたとか、それがほしいですね。あくまで回答しません、このままいきますというのであれば構わないのですが。あくまで確認事項として申し上げます。

事務局 回答という形で行ってはございません。ですが、引き続き、町や市の皆さんとは、対話をしていくつもりですし、繰り返しになりますが、この委員会がとても大事な機会だと捉えております。

臼倉委員長 その他、ございますでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、本題と言いますか、この後のボリュームがかなりございますので、よろしくお願ひします。新校基本計画検討委員会で検討されました、秩父・皆野新校基本計画検討（案）について、御協議をお願いするところなのですが、主に使う資料は資料3になります。なかなか内容が多岐にわたっておりましてボリュームがあります。事務局からの説明は所々切りながらということにして、その都度、御協議をという流れで進めたいと思います。まず、事務局から説明をお願いします。

事務局 （秩父・皆野新校基本計画検討（案）のうち基本理念（目指す学校、育てたい生徒像）、基本姿勢について説明）

臼倉委員長 一旦ここで区切りたいと思います。今、事務局から説明があった部分について、御質問、御意見等を頂戴できればと思います。何かございますでしょうか。

松本委員 秩父商工会議所専務の松本と申します。まず最初に、事前に資料をいただいて、基本方針自体にちょっと違和感を覚えました。なぜかと言うと、和光と岩槻ですね、こちらの県南の学校とほとんど同じ基本方針が出ているということで、秩父の地域性はどうしてしまったのかという素朴な疑問です。その中で、グローバル人材というのは本当に大きな話で、日本において必要な人材であることに間違いはないですが、今、産業界では空前の人手不足で、一人でも多くの人に秩父の学校を出てもらいたいし、そのままできれば就職までしてもらいたいというのが、強く切望されているところです。その中で、秩父の特性を生かされないような雰囲気を受けましたので、この基本方針自体がいかげなものと。単純に考えると、グローバルというよりは、やはりローカルの、秩父の特性に特化した、秩父ならではの勉

強をさせてもらった方が、現実的なのではなかろうかという感覚を覚えております。残りの3校については特色が出ていますので、そこを追求していくというのは一つの生き方なのかなと思っているのですが。どういう生徒を募集したいのかというのが今一つ不透明で、やはりこういう生徒に応募してもらいたいということがはっきり分かるような、具体的な方針を掲げられるのが望ましいという感じはしております。

臼倉委員長 事務局からお願いします。

事務局 国際に関する学科というところでの一般的なイメージというのは、どうしても外に向かってという意味合いが出てきてしまうのかと思います。この地域の、高校生に限りませんが、学生がこのエリアで育った後、外のエリアに行ってしまうとなかなか戻ってこないという人材の問題というのは、産業界に限らず、深刻なところがあると思います。私たちが考えているところの国際、グローバルというのは、国内外で活躍する、ということを強調させていただいております。決して海外に出すことを第一義的な目的として考えているわけではありません。また、基本方針の中にもありますように、このエリアには、有形無形に関わらず世界に注目される観光の名所もありますし、たくさんの人々を惹きつける魅力があると思っていますので、そうした中で、地域社会に貢献できるような人材を、ここではグローバル人材と言わせていただいております。ですので、言葉では確かに和光や岩槻と同じような言葉が並んでいるのですが、松本委員のおっしゃるとおり、秩父、皆野の地域の特性ということ、私たちがもしっかり考えていきたいと思っております。今は三つの基本方針しかないのですが、これに肉付けしていく中で、そうしたニュアンスを盛り込んでいきたいと思っております。

松本委員 ありがとうございます。それがですね、なかなか一般の人には伝わっていないというのが現状だと思っていて、去る4日の土曜日に、4校の説明会がありました。こちらをたまたま中学2年生の子供を持つ知り合いが聞きに行ってきて、実は一番びっくりしたのが、皆野高校の発表に一番感動して帰ってきたんですね。それを私に報告してくれて、こういう会議があるということを知っている人だったので。やはりそれも産業界に直結するような、非常にいきいきとした生徒の取組が非常に心に残ったということで、こういうことは大事にしたいねと話しました。それとグローバルということが、当然、その人はグローバルという方向を出しているというは新聞を読んで知っていたので、「これは全然違う方向だよね。せっかく皆野高校が今まで一生懸命やってきたことが台無しになってしまうのではないか。」と心配しているということなんですね。だから、今おっしゃったようなことで、そんなにずれていないのかもしれないですが、このまま基本方針を見た場合は、一般の人はそうは取らないです。ですから、誰もこの学校に行こうと思わない恐れもあるということで、もう少し具体的な、観光なら観光を前面に押し出して、ローカルという言葉が適当か分からないけれども、例えば、商業観光学科のようなものをつくって、今までやってこられた皆野高校の取組を尊重しながら、秩父高校は多分、進学校としての秩父地域での位置付けでしょうから、特進クラスなどは良いと思うん

ですよね。そこに加えるならば、皆野高校がやってきたそのことを生かした形で新しい学科をつくっていったって、一緒になってやっていこうと。地域の観光業者や商工業者が、うちの子供を入れたと思うような高校をつくらない限り、恐らく外に向いてしまう気持ちというのはなかなか払拭できない感じがあるものですから、その辺をいかに伝えていくかということ、この言葉だと恐らく伝わらない、伝わりにくいなど。そういった懸念材料があるので、その辺を上手にお伝えいただければ良いと思いました。

臼倉委員長 この後、事務局で案を作成しまして第2回で見ていただくこととなります。その辺りで事務局からありますか。

事務局 先ほども申し上げましたが、私たち事務局の方で、それぞれの学校ともいろいろな内容等を確認しながら盛り込んでいきたいと思っておりますので、今よりは具体的なものになっていきます。最初に説明させていただいた、児玉新校の基本計画の抜粋、これが仕上がりのイメージですので、こういった形に文言を整理していきたいと考えております。

臼倉委員長 外部の方から見て分かりやすい内容でお願いできればと思います。

小菅委員 皆野中学校の校長の小菅です。今のお話の続きになるか分かりませんが、一つ、突拍子のない意見というふうにお聞きいただければと思います。このお話があってこの資料をもらって、私は最初、資料2の2ページを見ていただくと、上の段に秩父高校と皆野高校の統合と書いてありますが、私が一番先に目が言ったのが、実は下なんです。アニメーション・美術分野でどうのこうのということで、越生高校と鳩山高校の統合に目が行きました。なぜかと言うと、事務局の最初のお話にもありましたように、秩父はアニメの聖地なんですね。たくさん観光客、あるいは若者が訪れています。しかも、中学生も、そういうのが趣味で自分で作って真似して描いたりしている子供たちが結構います。どうして、越生高校と鳩山高校の統合みたいな案が出てこないのかということ、まず思いました。少子化の世の中で、秩父の子はもちろんですけども、他からも子供たちを秩父に寄こして、少子化を食い止めるというような案も一つあるのではないかと思います。先ほどの話にもありましたが、ただグローバルと言っているとピンと来ないので、具体的に、例えばアニメーション学科を秩父高校につくるといような案を出していくと、えっと思って期待して進学を希望する、あるいは他地域からいろいろな子供たちを取り込んで、また新しい形の秩父高校が生まれるといような発想もあって良いのかと思いました。そして、話にも出ていましたけれども、皆野高校の商業科の足跡を、少し残してほしいという思いもあるので、ものづくり的なところを秩父高校の中でもやっていたら、そんな空間を残していただけたら、皆野も合わさった新しい学校がスタートできると思います。国際感覚、語学力、グローバル、良いと思います。良いと思いますが、だったら具体的に何学科なのか、そして何をやるのかということを出していただけたら有り難いと思います。多分、秩父の売りは観光地だと思うんですよね。その観光とアニメ。これが一つの策ではないかと思います。もちろん秩父高校の進学校、これも同じように大切だとは思いますが、そんなことを思いま

した。参考にしていただければと思います。

臼倉委員長 ありがとうございます。事務局からお願いします。

事務局 ありがとうございます。私たちもいろいろ思うところがあります。確かにここは、アニメという意味では、もう一つの地域で新校をつくらうとしているところより、更にアニメらしいところなのかもしれませんが、越生と鳩山のところは、もともと越生高校に美術科があるんですね。それを発展させるという中からそういった話が出てきております。あの地域も、少子化という意味だったり生徒を募集するという意味では、非常に難しいところではありますので、同じような考え方をもう一つの学校のコンセプトにさせていただいたということです。秩父はと言いますと、いわゆる「あの花」、「ここさけ」、「空青」と言うんですかね、長編アニメーションが三部作あって、大変多くの方が聖地巡礼でこの地域を訪れているという状況がございます。学科についてはこれから議論することになりますので、ただ、基本方針には、国際に関する学科ということで、普通科とともに、そういった特徴を出していこうと考えておりますが、現在、高校では、中学校もそうですけれども、総合的な探究の時間がございますので、探究活動の中で様々なものに触れていくということは十分考えられると思います。実際に、今現在も秩父高校では、コロナ前ですけれども、芝桜が美しい時期に観光ガイドのような形で生徒が出向いて行って、外国人のお客様に案内をしたというお話もありますし、是非そういったところも、皆野高校の足跡というお言葉もありましたが、そういったところも意識しながら、そして進学校でグローバルを考えられる、そういったグローバル人材を、秩父・皆野新校で育てていきたいと考えているところです。ですから、アニメが学びの中に入ってくるということは十分にあり得ると思っております。

臼倉委員長 よろしいでしょうか。飛川委員、お願いいたします。

飛川委員 秩父市教育委員会の飛川です。私も、市と4高校で、高校魅力課事業を進めております。いろいろな取組を、高校や地域の4町とも手をつなぎながら、一生懸命、地域を盛り上げようとしているところでございます。そこでこの基本方針にしても目指す学校等にしても、やはり県立高校の設置権者と、秩父市や4町の間には、どうしても溝が生じてしまうところがあるので、こうした基本方針や目指す学校に、どう地域と手を結んでいくかという、地域も協力したい、一緒にやっっていこうというような目指すところが明らかになっていくと良いのかなと思います。県立高校だけが先に進んで地域が置いていかれていくのではなく、一緒にやっっていこうかという、そういった具体的なものがあると非常に良いと思います。今回も、とある事件で中止になったバス見学も、非常に高校の方の御尽力をいただき、中学生も満足して帰ってきたという事例もありますので、是非やっていただきたいと思っております。また、どうしても地域、地域というふうになってしまうと、どうしても秩父地域の中で狭く終わってしまう部分もあります。秩父の中の中学生の数がどんどん減っていくのが現状で、この後、数年後には更に中学生の数が減る中で、数年後には同じような問題がまた出てくるのかなと思いますので、外からもいかに入ってきていただくかというのがやはり一つの課題だと思っております。地域を余り強調せずに、

例えば、皆野高校の商業、情報処理、データ分析なども盛り込んだ科目や教育課程等の編成も、この後検討されていくべきだし、そういったところが少しでも入っていくだけで、秩父ではこんなことが発信できる、学べるんだというところをPRしていく必要があるのではないかと考えています。

臼倉委員長 ありがとうございます。御提案も含め御意見がありました。事務局からお願いします。

事務局 地域とつながっていくというのは、今の学習指導要領でも一番強調されている部分ですし、多くの取組があるのですが、新校においてもこのエリアの皆さんとつながっていきたくて思っています。また、御指摘をいただいたとおり、高校からすると地域というのが、地理的な範囲だけではなく、ステークホルダーと言われる関係の皆さんはいろいろなところにいてくださるということもありますので、より広域な地域の皆さんとつながっていけるような取組ができると良いと考えております。

臼倉委員長 その他、何かございますでしょうか。

大沼委員 生徒数はどんどん減っております。ですから、これで新校をつくったとしても、今後もまた更にこういうことが、減っていく現象が起きて、更にまた統合ではないですが、やはり減らさざるを得ないというふうにならざるを得ないかと。是非あの学校に行きたいと、地域の方も子供たちもそう言ってほしいと思います。県の方針として、国際コースなり国際関係をやろうとするのであれば、方針がもしもせんが、それで果たして子供たちがこの学校を選んでくれるのだろうか。そして、今までの歴史、秩父高校と皆野高校のやってきたことを受け継いで、これで良かったのかなと言えるかどうかはやはり、方針とともに考えていただきたいと思います。実際のところを言いますと、今、地域ではピンと来ない。国際科がなぜ急にここを出てきたのか。また、そういうことに対して、子供たちが望んでいること、地域が望んでいることは、今までここにあるような秩父高校の進学校、そして、学力を付けて伝統ある、あるいは、礼節、主体性がある人間を育てていくこと。また、皆野高校である実践、地域に根付いた、地域になくしてはならない人材を輩出していただいている皆野高校の実践性、あるいは商業に関連したところがあるわけですから、やはり国際というのはどうしてもピンとこない。合わさってもいない。そしてなお且つ、県内の他校、和光国際辺りであれば合うのかもしれないですが、合わそうとするのはなかなか難しいのかなと感じました。ですからこれは、県内に国際的な学科を分散させたいというのがあるのかもしれませんが、ちょっとその後が心配だなという気がしました。

臼倉委員長 ありがとうございます。子供に選んでもらえる魅力ある高校づくりをという御意見かと思えますけれども、事務局、いかがでしょうか。

事務局 我々もそこが一番大事だと考えています。ですので、秩父高校の良いところと、皆野高校の良いところ、これを決して壊すことなく、更にそこにうまく付加価値としての新しい学びが加わると良いと考えております。是非、肉付けをしていく

作業のところで、うまくそういったことを取り入れていけるよう、フレーズ、文言をいただければ、いろいろなものを盛り込んでいきたいと思っております。

田島委員 私からはお願いなのですが、まず第一に、地域もありますが、子供たちを中心として考えていただきたいなと思います。今の状況だと、どうなるのかというお話になっているかと思えます。でも選択するのは子供であって、子供たちが、何が今欲しいのか、またこれからどうしていききたいのかということを、今いる中学生に聞き取り調査とかをしていただければと思っています。今、統合ということで、皆野高校にはビジネス、商業とありますが、その中で、マーケティングという授業があります。先ほど商工会議所の方からもお話いただきましたが、そういうことで、子供たちも確実に力を付けております。この子供たちが社会に出たときに、社会人1年生としてアイデアですね、どの企業でもあるかと思いますが、アイデアというが必要だと思えます。私もいち企業人なので、やはりアイデアというのは一番大事なのかなと。お子さんが就職したときに、アイデアを出していただけるというのは、私たちにも助かることですし、また、そこで企業も活性化していけるのではないかなと思うので、そういうところも考えていながら、新校の準備ということで、お世話になりたいと思います。よろしく申し上げます。

事務局 子供たちを大切に、子供たちの思いをということですが、私たちも、いわゆる新校のニーズと言いますか、この地域にどんな学校が必要なのかということのニーズ把握は大事なところだと考えております。かつて、今日の資料にもありますが、児玉新校の際には、地元の中学生などから、そういった声を集めています。ですので、そういった取組ができれば良いと考えています。中学生やその保護者の方に、そして地域の皆さんに期待される、こういった学校がほしいんだというものに、是非近づけていきたいと考えております。

臼倉委員長 他にございますでしょうか。よろしいでしょうか。それでは次に進みたいと思います。事務局から説明をお願いします。

事務局 (秩父・皆野新校基本計画検討(案)のうち教科指導について説明)

臼倉委員長 教科指導に関して、ただ今、基本方針と具現化の説明がありましたが、この点について、御意見、御質問等を頂戴できればと思います。

金田委員 秩父市総合政策課長の金田と申します。実は、秩父高校と我々の方で、今年度からいろいろ協議しておりまして、総合的な探究の時間の授業を充実させるということで、今、例えば山陰地方だとかあの辺でかなり活性化に力を入れておりまして、地域おこし協力隊と言って外から一人来ていただいて、その方に地元の企業や団体と調整していただき、総合的な探究の時間をより良い時間にしていければというようなことを考えております。今後もし、こういった方針を新校に取り入れた場合に、今はなかなか先生方がお忙しくて、そういったところに手が回らないという実情もあるようですので、そういったマンパワーと言いますか、そういったコーディネートをしていただける人材の配置をしていただけるものなのかどうか。今後の話でしょうけれども、そういった方針もあるようでしたら教えていただければと思います。

臼倉委員長 事務局からお願いします。

事務局 今お話のあった、地域の活力をとということで、山陰でというお話がありましたが、例えば島根県でも大変有名な取組をされています。島根県教育委員会と埼玉県教育委員会は連携をして、教員を相互に派遣するなどをやっております、そういった研修等の積み上げの中から、こうした地域との連携やその他の活動に指導的な立場で関われるような教員を育成しているところでございます。それをコーディネーターのような形で配置できるかということですが、もちろんそういったことも考えないわけではないのですが、何分、人を置くということはお金がかかることですし、予算的なところでは今の段階でははっきり申し上げられないところがありますが、是非そういったものを、このエリアでこの地域で積極的にノウハウなどを生かしていきたいと思えます。今、県のお話をさせていただきましたが、皆野高校もそうですし秩父高校でもそうですが、実際にそうした地域とのつながりで、しっかりとした活動が行われつつありますので、そういったところをうまく、更に発展していただけるような人材を、教員の中から育成していく必要があるというが、私たちの課題でもあります。

臼倉委員長 その他、何かございますでしょうか。

飛川委員 これはお願いということなのですが、たくさんの教科指導を行っていただく中で、入学して在籍した子供たちが、それぞれの力を付けて社会に出ていくためには、やはりいろいろな部分での、ハード面でもソフト面でも制度面でも、お金はかかるかと思いますが、大変不躰なお願いですけれども、是非そういったところの制度もより充実させて、子供たちがこの学校で学びたいと思えるような学校をつくらせていただければと思います。

臼倉委員長 その他、いかがでしょうか。堀口委員、お願いします。

堀口委員 商工会の堀口でございます。先ほど田島委員から、大変良い話がありましたので、まず子供の意見を聞くということも、大変重要なことだと思います。皆野町の中学生だけでなく、1市4町の中学生にも、こんな高校があったら行きたいということがあれば、是非子供の意見も取り入れていていただきたいと思えます。小菅校長先生もいらっしゃいますので、いろいろな意見が出てくると思えますけれども、それが新校で生かせるものなのかどうなのかということを考えるのは大人がやることで、まず子供の意見を聞くということは、私は大変重要なことだと思います。それによって、自分の意見がここに生きていくということが分かれば、大人でもそうですけれども、自分の意見がここに反映されているということが分かれば、子供たちはもっと、新しい高校に行きたいと思うのではないかと思います。

事務局 とても大切な視点をいただいたと思っております。新校づくりに子供たちを参画させていくような取組ができれば良いと考えています。

臼倉委員長 他にございますでしょうか。佐藤委員、お願いいたします。

佐藤委員 遠隔授業の関係のイメージを皆さんで持っていただいた方が良いと思えます。どんなイメージを持っているのか御説明いただければと思います。

事務局 現在、埼玉県の県立高校は、国のGIGAスクール構想の関係もありまして、

高速のネットワークが入りました。これは秩父高校にも皆野高校にも入っています。環境が整ってきているので、それを学びの中にも取り入れていきたいと考えています。インターネットの良いところは、空間的なところを超えてつながることができるということですね。なので、実際には距離がものすごく離れている3校も、一緒につないで同じコンテンツで学びを進めると。例えば、和光国際高校には外国語科があって、たくさんの外国の方や留学生がいたりしているので、そういった方の、例えばインタビューなどを、関連するところに配信していくとか、あるいは実際に海外に留学している日本人がいたりして、現地からの情報を、同じように3校で同時に受信してシェアする、そういったところも、物理的な障壁を乗り越えて、インターネットあるいはICTという技術の中でできるようになるということ、そういったことを取り入れていきたいと考えています。揃えていくには、時差の問題であるとか、3校が同じ時間帯を空けるなど工夫が必要になると思いますが、一つの可能性として広がってくるのかなと思います。

臼倉委員長 三橋委員、お願いいたします。

三橋委員 皆野町教育委員会の三橋と申します。教科指導ということで、こちらにあります基本計画検討（案）の中で、秩父高校案にしても皆野高校案にしても、進学校という言葉が出てきます。進学校における教科指導の内容というのが、具現化のところで、秩父高校案ではかなり、進学型単位制などの言葉が出てきていると思います。ただ、一部の教育の関係の評論家の方に言わせると、今、大学の入試ではかなり多くの割合がAOと言いますか、総合型選抜で入学が決まっていくという状況で、学力検査で合格を決めるのは、ほんの上位の、一握りの超難関校になっていくのではないかというようなことも指摘されています。そういうことを考えますと、教科指導の中で、進学ということに余りこだわりすぎるのではなくて、総合型と言いますか、総合的な人間力を付けていく、そういった視点で教科指導の内容を考えていただければ有り難いと思います。

事務局 たまたま両校から出てきているものには、多分現在の秩父高校の取組を更に発展させようということでの記載かと思いますが、大学の入学者選抜も大きく変わってきておりますし、特に実際の高校の現場では、総合型選抜にどう対応するかということは、結構大きな話になっていると考えております。ですので、探究活動などの学びは、こういった力を補いやすいので、そういったところに力を入れていく必要があると思いますし、是非、進学ということだけにとらわれず、生徒の力をより高めていきたいと考えているところです。

臼倉委員長 その他、いかがでしょうか。教科指導関係、よろしいでしょうか。安藤委員、よろしいでしょうか。もし御発言があれば手を挙げていただければこちらで分かるようになっておりますので、よろしく申し上げます。それでは、先に進めさせていただきます。事務局から説明をお願いします。

事務局 （秩父・皆野新校基本計画検討（案）のうち生徒指導について説明）

臼倉委員長 ただ今の説明について、御意見等があればお願いします。生徒指導も最近では、随分考え方が変わってきているところもありますので、それらを踏まえて

ということになってくると思います。田島委員、お願いします。

田島委員 生徒指導のところの論点に、多様性の尊重とありますが、多様性というのは、LGBTQの方たちのことと捉えるのでしょうか。それとも、世の中にはもっとありますよね、例えば、こういった言い方は適切でないかもしれないですが、健全者、障害者とあると思います。その辺は、どこまでの範囲なのでしょうか。そういうのも含めて、お願いできればと思います。本当に、大きく見ていただいて。

臼倉委員長 多様性のところについて、事務局からお願いします。

事務局 多様性ということですので、例えば、外国にルーツがあるとかないとか、こういった地域の出身であるのかとか、もちろん、男性であるか女性であるかなど、様々な、多様な属性があって、それをお互いに認めていこうということだと思えます。田島委員から言っていた、性の多様性というものも当然あると思えますし、また、障害者とそうでない方の関係性であるとか、いろいろなものが含まれると思っています。ですので、かつての生徒指導と言いますと、どちらかと言うと、こうあるべきという型に入れていくような指導が実際に行われていたということがあると思います。私も元は教員ですので、そういう世界を知っていますが、それが、そうではない形の、それぞれの個人を大切にしていける生徒指導に転換しつつあるのかと思っています。そういったところを極めて大切な視点として考えていきたいと思っています。

臼倉委員長 他に何かございますでしょうか。生徒指導関係、よろしいでしょうか。それでは先に進みたいと思います。事務局から説明をお願いします。

事務局 (秩父・皆野新校基本計画検討(案)のうち進路指導について説明)

臼倉委員長 ただ今の説明について、御意見等がございましたらお願いいたします。金田委員、お願いします。

金田委員 進路指導の秩父高校案、皆野高校案、両方ともキャリア教育というフレーズが中に出てきておまして、これは、これまでの県の方の基本方針にはない、論点のところには書いていないところが両校から出てきておまして、今後、肉付けしていく中で、キャリア教育というフレーズが入ってくる可能性はあるのでしょうか。

臼倉委員長 事務局、お願いします。

事務局 両校の案に記載されておりますし、進路指導という意味合いよりももう少し幅があるのがキャリア教育なのかもしれませんので、そうしたところをうまく盛り込んでいければと考えております。何か懸念のようなものがあればお伺いしたいと思います。

臼倉委員長 キャリア教育の考え方を盛り込んでいくという形になるかと思えます。表現の仕方は事務局の方で工夫していただくとして、よろしく申し上げます。その他いかがでしょうか。飛川委員、お願いします。

飛川委員 私は元々は地元の中学校の教員なので、1市4町の4高校への進路指導等もやってきたので、その中で三者面談等を行った上での経験を言うと、進学校とか、大学大学と言うと、どうしても優秀な子が意外と敬遠してしまうという部分という

のがありまして、「先生、この間説明会に行ってきたのだけれども、大学大学、進学進学、勉強勉強としか言わないから私はちょっと」という優秀な中学生、そこそこ素直な良い子だったのですが、進路を変えてしまったということがあるので、私は思うのは、もちろん、大学進学という目標があるならば、大学進学も就職も専門学校進学も留学も、良いことだと思うので、是非、あなたが思っている夢を叶える学校と言いますか、そういったところの在り方というのは非常に大事で、勉強勉強だけではなくてあなたがやっている勉強を通して、あなたの夢が叶えられる可能性が高まる学校が秩父・皆野新校だよと中学校の先生が堂々と言えるような学校になると良いのかなと思っています。

臼倉委員長 ありがとうございます。夢を叶える学校という視点でしたが、事務局、いかがでしょうか。

事務局 とても素敵なフレーズだと思いますし、是非、中学生にもそういった形で伝えられるような文言を出していけると良いと思っております。キャリア教育という捉え方も、恐らくそういったところにもつながっていくと思いますし、いろいろな生徒のこの先の人生の道を開けていけるような、そういった学校の可能性、ポテンシャルがあるんだということを示せるようなフレーズをうまく入れていきたいと思えます。

臼倉委員長 その他、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。この辺り、両校からも非常に細かく意見というかアイデアが上がってきていますので、その辺りをうまくまとめてもらうような形で作業をお願いします。それでは先に進みたいと思えます。事務局から説明をお願いします。

事務局 (秩父・皆野新校基本計画検討(案)のうち生徒募集について説明)

臼倉委員長 生徒募集について説明がありましたが、御意見、御質問があれば頂戴いたします。小菅委員、お願いします。

小菅委員 今、生徒募集のところの説明がありましたけれども、教科指導のところから一貫して、進学校を意識した教科指導であり生徒指導であり進路指導であり生徒募集かなと思えました。ICTにしても、海外留学にしても、第二外国語の導入だとか、ITビジネスにつながる科目だとか、そういったものが用意されている感じがして、非常に、乗ってしまえば良い進学校が見えてくるのですが、先ほど、多様性の話のところ、私自身、思うことがあったのでお話ししますが、多様性というふうに考えるといろいろな子がいるわけで、しかも、ここに書いてあって、引っ掛からない子供たちがいて、もう少し具体的に言うと、今の本校の1年生で、実は皆野高校に入りたいとずっと思っていた子がいます。ところが、自分たちが3年生になったときにはもう皆野高校はないという話をしたときに、それをきっかけに実は今、不登校になっています。非常にショックだったんでしょね。近くで、皆野町で、少人数で面倒見が良く、人付き合いが苦手な勉強も不安だけど、でも皆野高校があるから皆野高校に行きたいと思っていた子が、たった一人ですけれども、います。そういう子にも目を向けてほしいというふうに考えてしまうと、その子たちは度外視されてしまっている、そういう計画になってしまうのかなと思えました。

もし可能ならば、そういう子たちも受け入れられるような、そんな学校だと、もっと魅力なのかなと思います。今、本校だけではないと思いますが、いろいろな事情で、学業不振もあります。家庭的な事情だとか、言うに言えない事情で不適應を起こしたり、不登校になってしまったり、全国的に増えています。そういう子たちも足を運べるような、なんとなくこの学校なら行けるかなという場所も秩父の中にあっても良いのかなと。もしこれが進学校の中にもあると良いのかなと勝手な思いなのですが、感じました。定時制とか通信制という学校のシステムもあると思うのですが、また東京ではそういう学校に非常に希望者が増えているという話も聞いたことがあります。そこまでしろとは言いませんが、そういうことも考えられないかなと思いました。

臼倉委員長 ありがとうございます。事務局、いかがでしょうか。

事務局 最近、大きな問題になっていると捉えておりますが、埼玉県は、誰一人取り残されることなく、お互いを認め合い、学び合えることができる、そんな教育を推進しているといったところがあります。ですから、今はたまたま小菅委員の学校のお話だったり、新校という枠組みの中で話題になりましたが、広く埼玉県全体の問題、課題だと認識しています。様々な施策も生まれてはきておりますが、それを、例えばこの秩父エリアに、どういう形で、どういう規模で置くべきなのか、全県的な取組の中で考えていくことが必要かと思っております。教育局の中で、更に検討していきたいと考えております。

田島委員 小菅委員の話の続きになるかもしれないですが、皆野高校に説明に来ていただいたときに、あと、パブリックコメントにも書きましたが、うちの子も特別な支援を必要とする子でした。自宅は秩父市にありますが、小学校のときから、皆野町の剣友会でお世話になっておりまして、その同級生たちと一緒に中学校に行きたいということで地元教育委員会に相談をしまして、皆野中学校に行けることになりました。やはり、小学校から中学校へ行ったときに、環境的にも良くしていただいて、皆野高校の校長先生とも出会いまして、うちで面倒見てあげるからということでお世話になりました。子供には環境が大事なもので、行けないと思えばそのまま引きこもりになってしまうと思います。先ほど小菅委員がお話されたように、居られる場所というのを子供たちにつくってもらいたいと思います。引きこもりになれば、変な話ですが、社会とは断絶され、働くこともできません。税金も納められません。そうなると、親御さんも大変ですけれども、地方も大変になります。そういった状況にならないためにも、子供が歩いていけるような学校と言いますか、自立ができるような、サポートができるような学校をお願いしたいとお話ししました。そのときも、誰一人取りこぼしのないという話もいただきました。そういう子たちに、手を差し伸べてあげられるような学校をつくっていただきたいと思います。よろしくをお願いします。

臼倉委員長 ありがとうございます。事務局、お願いします。

事務局 繰り返しになってしまうかもしれませんが、特定の学校ということももちろんそうですが、全県的な視点に立ってこういった具体的な問題ということに対応し

ていく必要があると思います。国の方もそういった動きを示していますし、埼玉県としても是非そういったことを考えたいと思います。そして、ここの地域で言えば、皆野高校がこれまでそういった取組を進めてきたということがありますから、秩父・皆野新校に関しても、皆野高校の取組をどういうふうに、この地域につなげていくか、そういったところができないか、これも教育局内で検討してまいりたいと思います。

臼倉委員長 他にいかがでしょうか。

松本委員 全体的な話なんですけれども、かなりいろいろな学科だとかカリキュラムが計画されているのを拝見して、先生の調達は大丈夫なのかなという、ちょっと素朴な疑問を持ちました。今、教員希望者が年々減っていて、教員のなり手がいなくなっていると思います。その中で、先ほどの話と矛盾してしましますが、専門性が高くなればなるほど、最先端のことは誰が教えるのだろう、それを一生懸命勉強した人を違うところでアニメを教えられるのか、そういったことになるかだと思います。その辺が、教育局としてはどのように認識しているのか教えていただければと思います。

臼倉委員長 ありがとうございます。教員の確保ということですが、事務局からお願いします。

事務局 大変重要なことで、すごく指摘としては鋭いところを突かれていますと考えております。新しい学びを展開するためには、先生方の資質向上が欠かせないと思います。埼玉県教育委員会では、例えば、先ほども少し申し上げたかもしれませんが、新しい学びを指導できるように教員を研修に出させるということをやっています。現職のまま1年間にわたって外部機関に研修するという制度がございます。少しジャンルが違いますが、例えば、工業教育の充実を図るために県内の工業系の大学に先生を1年派遣するとか、あるいは情報とかビジネス教育の充実のために、そういった企業や大学の大学院への派遣などを行っています。先ほどデータサイエンスという話題にもありましたが、熊谷にある立正大学にデータサイエンス学部ができましたので、そういったところで、教員も学びますし、生徒たちの学びもやっていて、本来ならば、教員という資質を高めることを私たちが教育委員会としてやっていく必要もあるのですが、これだけ様々なことが専門化している中では、場合によっては外部の力を借りる必要もあると考えております。高度な専門性を必要とする場合には、いわゆる実務家教員として、プロの方を特別な教員免許を付与するという形を取って、非常勤講師としてお呼びすることも考えているところです。ですので、私たちもそこは頑張らなければならないと思っていますので、松本委員の御指摘のとおりでございます。頑張らせていただきます。

臼倉委員長 他によろしいでしょうか。それでは次に進みます。事務局から説明をお願いします。

事務局 (秩父・皆野新校基本計画検討(案)のうちその他について説明)

臼倉委員長 その他として皆野高校案が記載されています。全体を通して御意見、御質問等があれば承りまして、資料3についてまとめていきたいと思っております。

川窪副委員長 貴重な御意見をありがとうございました。全体の資料の中で、皆野高校の中で検討した項目で、欄の中に納められなかった要素が若干ありましたので、2点ほど追加でお知らせと言いますか、情報共有させていただければと思います。一つは、生徒指導の方にあったのですが、生徒指導の中で皆野高校の考えた内容として、具現化のところで、いじめ防止や共生社会の考え方に基づく指導を推進したいという内容を書きましたが、これについては、この欄に書けば良かったのですが、いわゆるインクルーシブ教育の視点ということで盛り込んでおりました、具体的に言うと、特別支援学校が秩父地域にありますので、そちらと連携した取組によって、いろいろな多様性を生かした探究も持てると良かなということは、考えの中に入れております。もう一点は、生徒募集のところで、耳慣れないキーワードも入っておりますが、募集が非常に重要になってくる中で、皆野高校で検討した内容として、全国から募集することはできないかということも、検討の一つとして出てきましたので、補足というか情報共有としてお話をさせていただきました。

臼倉委員長 よろしいでしょうか。安藤委員、よろしく申し上げます。

安藤委員 改めて、本日オンラインという形での参加ということで、大変失礼いたします。個人的なことなのですが、私は地域の取組に大変好きで、学生たちとも市町の取組に参加させていただいたりしています。そういったこともあったものですから、学部を通して、委員の委嘱の件でお話があったときに、自分でどこまでお役に立てるのかと思いましたが、でも何か地域の皆さん、そして何よりもここにいる皆さんのお役に立てればと思って、今回、役をお引き受けしたということでございます。以下、感想めいたことで恐縮ですが、本日の議論、本当に大事なことを議論されているなと思ってここまでずっとお伺いさせていただいておりますので、感想として一言お伝えさせていただければと思います。今日は基本理念についてずっと議論されておりまして、本当に大事なところかと思えます。大きな地球社会全体の変動の中で、グローバル人材が求められることは言うまでもありませんが、グローバル人材という言葉を使うと、自分たちの地域から子供がいなくなってしまうのではないかと多くの方は思われるのではないかと思います。恐らく、事務局からもお話がありましたけれども、決してそんなことはないとお考えかと思うのですが、例えば、最近、グローカリズムということが結構言われているかと思えます。グローバルな視野をもとにして、ローカルを大事にする。そういう意味で例えばローカル人材という言い方もあるかなと思っています。この表現が良いか悪いかということもあるかと思えますが、各地で、地域に残って農業をやったり伝統産業を受け継いでいるような若者たちの話を聞くのが好きで、いろいろなところでそういったことがあって話を聞くのですが、結構多いのは、一度地域を出ているんですね。それでいろいろなところでお世話になったりした上でまた戻ってくるということがあるのではないかと思います。そういう意味で言うと、地域を大事にするということと、地域を出て全国いろいろなところに行ってみるとか視野を広げてみるとか、更にローカルな視野というのは本当に大事なことなのではないかと思います。ですから、地域を大切にすることとグローバルをどうつなげていくのかという

ことで、是非、良いコンセプトを御検討いただいて、それを新校の基本理念にされると良いのかなと思います。時間の関係で細かいことは申し上げられないのですが、こういった議論が大切であるということで私自身も学ぶことも多かったものですから、今後の運営に関わって、三つくらい、更にこういうことを大事にしたらどうかということ、知見と言いますか感想として述べさせていただければと思います。一つは、何人かの方がおっしゃっていた、子供の声を大事にするということです。やはりそこは本当に大事なことではないかと思っています。彼らは見えています。大人たちがどうやって学校をつくるのか、どんな学校を自分たちのために用意してくれるのか、自分たちの行き場はあるのかということを見ているわけです。そこを忘れてはいけないと思いますし、彼らの視線というものを委員会が受け止めるということはすごく大事なことだと思います。そういう意味で言いますと、中学校の校長先生方や様々な関係者の方がいらっしゃいますので、アンケートという意見も出ましたし、もしかしたら、生徒の代表にここに来ていただいてお話してもらうとか、いろいろなことが考えられると思います。事務局からしてみると、スケジュールがありますから、それを崩したくないという思いは当然あるかと思っています。ですけれども、恐らく、繰り返しになりますが、子供たちが見えているということは、どういうふうに大人たちがこの学校を丁寧につくっていくのかという、その丁寧さというのはすごく大事なことだと思います。子供の声を大事にするということは、そういう意味で言うと、彼らが来るのですから、とても大事ですし、それを反映させていただくことによって、大きく言えば、彼らが学校づくりに参加するということです。そのことがすごく大事なのではないかと思ったのが1点目です。2点目は、これも申し上げるまでもないですが、今新校で問題になっていることは、全国の高校で問題になっています。そういう意味で言うと、全国で高校統廃合があり、つぶれそうだったけれども、地域から高校をなくすと地域そのものがつぶれてしまうのではないかということでものすごい激論になって、その中でいろいろな高校づくりをしているという例が、埼玉県内でもそうですけれども、全国各地にあります。もちろん、県教委の方はそういったことを随分研究されていると思います。例えば、先ほど島根県の話が出ましたが、その隣の兵庫県に県立村岡高校があります。この学校では、地域類型というのを、もともと廃校になりそうだったのですが、地域の方からいろいろな御意見が出て、地域類型の学部をつくって、その中で地域のことを中心とした学びを実践し、それを取組として鳥取大学との提携しながらやって結構成功しています。そういった先行事例などいろいろありますし、県教委も御存じかと思うので、時間的に難しいのかもしれませんが、そういった取組を聞いてみるとか、何かそういったことがあっても良いと思います。先行事例を参考にするというのもあって良いと思います。最後ですが、ズレを大事にするということであえて申し上げたいと思います。これは、若林委員が最初に言われたことですが、とても大きいことなのではないかと思っています。私のような立場の人間が言わないと、なかなか皆さん、口にするのは難しいのではないかと思いますので、あえて大学教授の立場として言わせていただきます。若林委員の御発言に尽きると思うのですが、地元の首

長や議会の議長が声を出していらっしゃるということに対して、埼玉県教育委員会がどう受け止めたのかというのを、やはり返すことが大事なことはないかと思えます。最近、若者の政治離れが言われます。なぜでしょうか。単純なんです。諦めているんです。政治家が声を上げたって変わらないと思っているんです。首長が何か言っても応えてもくれないというのを、子供たちはどうでしょうか。もちろん、先ほど若林委員がおっしゃったように、この大きな流れというは、ここにいらっしゃる皆様も理解をしていると思えますし、子供たちだってそのことは理解できると思えます。だけれども、そこに対話があることによって、地元がこういう声を投げかけた、それに対して何か声を戻す、そのことによって、子供たちは、Aという意見があってBという意見がある。それがズレている。でも、そのとき大人がどうやってそのズレを解決するのかを見るわけです。これが大事な主権者教育なのではないでしょうか。これが、地域の子供たちを育てる上でとても大事なことはないかと思えますし、グローバル人材も結局そうです。多様な価値があります。その多様な価値の尊重はどうやってやるのでしょうか。対話をするということなんです。対話をして、ズレをだんだん埋めていくというプロセスそのものが重要なことだと思えますし、それが地域を大切にすることになると思えますし、子供たちが未来に希望を持って生きる道筋にもなっていくのではないのでしょうか。繰り返しになりますが、私は何か議事を妨げたいとかそういったことでは全然ありません。ただ、投げかけられたことに対して応えるということがまさに民主主義であると思えますし、繰り返し言いますが、そのことが子供たちの、地域に対する思いや大人に対する信頼感を得る上で、決定的に大事なのではないかと思えます。是非、そのズレがある、でもそれを大人たちが大切にして、それをこうやって乗り越えていくんだというモデル、規範を是非見せていただきたいと思えます。長くなりましたが以上です。次回以降は必ずそちらにお伺いして参加したいと思えます。

臼倉委員長 ありがとうございます。貴重な御提言を含めて、受け止めさせていただきたいと思えます。その他、何かございますか。浦島委員、お願いします。

浦島委員 最後に一言述べたいと思えます。8月のときに説明を聞いて、そのときもお話をさせていただいたのですが、新校の内容の方は良いのですが、やはり、いろいろな準備もあるかと思えますので、是非、ハードの面も、いろいろ必要なものもあるかと思えます。実際に私立高校と比べて、同様の設備にしてくださいというのは無理なので、ましてや県立高校、公立高校なので無理なのは分かっていますが、是非、2校が一つになるということであれば、いろいろな面でも面倒を見ていただきまして、設備的に環境の良い学校で生徒が学んでほしいと思えますので、お願いしたいと思えます。秩父地域はもともと5校あってそれが4校になり、それが今度3校になるということで、確かに埼玉県の人口の1%しかいない秩父地域ですけれども、是非、そんなことはしないとは思いますが、秩父地域を軽視しないで、県南の方の人口がたくさんいる地域と同じような目で、今後も御協力していただければ、私たちはすごくうれしいので、是非、その辺もよろしくお願いしたいということ、最後に申し上げました。

事務局 しっかりと、浦島委員のお気持ちを受け止めさせていただきたいと思います。
できる限り頑張りたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。
臼倉委員長 その他いかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、以上で協議
を終わりにしたいと思います。議事進行の御協力いただき、ありがとうございました。